

古文書を読もう

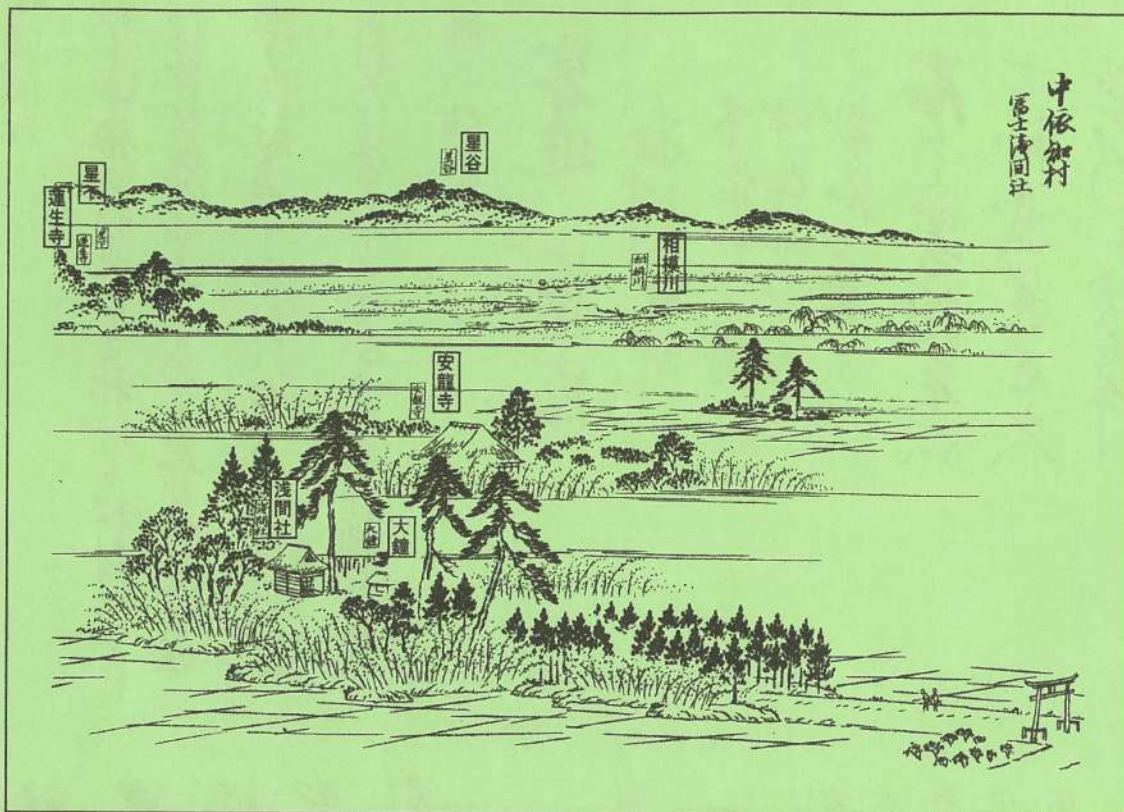
第30号

令和6年9月

古文書で知る郷土の歴史

古文書で知る郷土の歴史(十二)

『相中留恩記略』⑤



絵図…国立公文書館所蔵版の絵図を加工

『相中留恩記略』五回目は中依知村です。絵図手前には木立の中に「浅間社」(現・浅間神社)が描かれています。境内に現存する「大鐘」(つり鐘)は神奈川県指定重要文化財になっています。「安龍寺」は浅間社の別当寺でした。左端の「蓮生寺」は日蓮の「星下りの奇瑞」を伝える三寺(妙伝寺・蓮生寺・妙純寺)のひとつです。相模川の対岸に「星谷」とあるのは坂東三十三観音第八番札所で「星の谷観音」とも称される「星谷寺」です。

絵図のタイトルになっている「富士浅間社」の由来については以下の伝承があります。

その昔、相模川が氾濫して一帯の農地が水没し、濁水の中から一体の阿弥陀様の仏像が流れ着きました。その夜、村人たちは皆同じ夢を見ました。夢の中に木花咲耶姫という名の美しい娘が現れ「明日、必ず雪を降らせませう。もし私を大事に祀ってくれるなら、この土地を守り、豊かな実りを与えましょう」と言うのです。次の日の朝、真夏だというのに雪が降り出し、中依知と上依知の村境は大雪になってしまいました。夢が本当になって驚いた村人達は、村境に社を建て、仏像を手厚く祀り、真夏に雪が降るのは富士山より他にないとして、社名を「富士浅間社」としました。

またこの神社のつり鐘は、日照りが続くと雨乞いのために村人達に担がれ、度々相模川に沈められました。

(出典…『あつぎ子ども風土記』厚木市教育研究所一九八八)

次ページでは幕府から御朱印を下賜されている富士浅間社について記した文を解説してみます。

厚木市古文書解説会

あつぎ郷土博物館に収蔵されている古文書の解説に取り組んでいます、興味のある方は第2、第3、第4木曜日に活動していますのでお問い合わせください、

あつぎ郷土博物館 TEL 046-225-2515

古文書を読もう

第10巻2号通巻30号

発行日 令和6年9月26日

発行 厚木市

編集 あつぎ郷土博物館

住所 厚木市古文書解読会

〒243-0206

厚木市下川入一三六六―四

電話 〇四六―二二五―二五一五



柳樽